

II 日韓交流学习のデザイン

1. 必要なステップ

交流学习をどのように年間のコース、カリキュラムに組み入れていくかは教育現場の事情によって異なるものであり、各教育現場で手作りの授業デザインをしていく必要があるでしょう。ここではこのような授業デザインをする上で必要なステップをまとめたいと思います。

《実践前に決定しなければならないこと=交流学习プラン》

□交流学习の相手校

姉妹校との交流学习は可能か、その他の学校も考えられるか。

交流相手校の探し方

国際文化フォーラムによる中高生の直接交流を支援するウェブサイト「つながる」の活用

<http://www.tsunagaaru.com/jp/whats.html>

教師会のネットワークの活用

高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク <http://sites.google.com/site/jakehshome/>

韓国日本語教育研究会 <http://www.kojata.or.kr/>

□交流学习のシラバス

どのようなシラバス(学習項目の一覧)に基づいて実施するか。

□交流学习のカリキュラム

年間カリキュラムにおいて、いつ、どれくらいの時間を交流学习に充てるか。

□交流学习の方法

対面型か、非対面型か。両方を合わせて実施可能か。

□交流学习の評価・振り返りの方法

誰が、どのように交流学习を振り返り、評価するか。

交流学習プランの例

担当授業:韓国語

受講生:高校3年生(初学者)6名

学習時間:25時間(80分授業を1時間とする)

□交流学習の相手校

ソウル日本語教育研究会 (<http://cafe.daum.net/sejata>) のネットワークを利用し、交流相手校を探した。

□交流学習のシラバス

交流学習の内容を決めるにあたって、韓国の日本語教育の基準シラバスである『教育課程』(link http://www.kice.re.kr/ko/board/list.do?menu_id=10136)、日本の韓国語教育の指導の目安となる『学習のめやす(試行版)』(link http://tif.or.jp/jp/special/intro/04_meyasu/04_meyasu.html)を参照し、教育の内容と方法における接点を探った。接点として見出されたのは「生きたコミュニケーション活動と文化理解」、「学習者志向・学習者参加型の活動」であった。これらを考慮し、生徒の関心の高い話題とそれに関して情報や気持ちを伝え合うコミュニケーション機能を重視したトピックベースの課題シラバスを採用した。具体的には7つのトピック(表1参照)に沿って自分や自分の生活について伝える資料作成とコメントの交換を課題とし、その課題遂行のために必要な言語のスキルを身につけることを目標とした。

□交流学習のカリキュラム

4月から1月までの期間で、テーマに基づき、月に1回資料を交換する計画を立てた。資料の交換のほか、手紙の交換も並行して行うこととした。定期試験や長期休暇の時期は活動を休止することとした。

□交流学習の方法

非対面型の交流学習を基本とした。交流学習を行うにあたって生徒名簿順に生徒のマッチングをし、パートナーを決定した。生徒はパートナーに対して母語と学習言語を用いてトピック別資料を作成し、教員が回収し、メールに添付したりFAXや郵便で送ったり、して交換することとした。なお、授業の前後には教員間でメール等を通して授業報告をし、情報の共有化を徹底するようにした。

□交流学習の評価・振り返りの方法

前期、後期の終了時に教員間で打ち合わせし、交流学習の成果や課題について話し合うこととした。生徒に自由記述のアンケートを実施し、その結果を分析し、今後の方針などについて話し合うこととした。

表1 交流学習プランの例(2008年度)

交流の期間	2008年4月～2009年1月（韓国側20時間放課後授業、日本側25時間の授業内で実施）	
最終ゴール	交流活動を通して日本または韓国について調べてみたいテーマを発見し、研究計画を立ててアンケート調査を実施し、結果と考察をまとめレポートにする。	
交流学習活動予定	4月	トピック1「自己紹介」自己紹介カード・名刺・パワーポイント資料の交換
	5月	トピック2「食べ物」好きな食べ物・お店の定番メニュー紹介資料の交換
	6月	トピック3「学校生活1」かばんの中身紹介資料の交換
	9月	トピック4「夏休みの生活」夏休みの生活報告資料の交換
	10月	トピック5「学校生活2」学校紹介ビデオレター交換
	11月	トピック6「将来の夢」将来の夢紹介資料の交換
	12月	トピック7「自由研究」交流を通して興味を持ったテーマに関する アンケート調査（交流校の相手を対象とする）
	1月	「自由研究」アンケート調査の結果と考察の発表・レポートの提出

3. 交流学习で可能となる教室活動の例

交流学习の活動パターンを《交流体験》《情報交換》《協同作業》という目的別に分けました。ここで紹介する活動パターンは、交流学习を単発で行う際（例えば、一年に一回交流活動があるとき）にも使えるものです。

《交流体験》

●一緒にゲームをする

●対面型

ことば当てゲーム

生徒がよく知っていることばを取り上げ、ジェスチャーなどでヒントを与えて、同じチームの仲間になにかを当てさせるゲーム。チーム対抗で行う。

- ①生徒はチームに分かれる。
- ②各チームでことばを当てるためのヒントを与える人と、答えを当てる人とに分かれる。
- ③あらかじめ用意していた「ことば」のカードを、当てる人の背後で示して、ヒントを与える人がジェスチャーなどでヒントを示し、それを聞いて「ことば」を言い当てる。



何だろう

当てることばは、日本語の教科書に載っている、既に勉強したことばです。

例) パソコン、かばん、教室、など。

ヒントを与えています

お題（当てることば）はこちらの画面に出ています。

うーん・・・

（写真）2009年10月

ソウル市の慶福ビジネス高等学校にて



何でもランキング・クイズ

クラス内で「もらいたいプレゼント」や「好きな屋台料理」などを調査して、その結果をランキングにまとめ、相手の生徒に当てさせるゲーム。

	<p>①クラス内であらかじめテーマについてのアンケート調査をし、その結果を集計しておく。</p> <p>②画用紙にランキングを書く(1位、2位など当てさせたい結果については空白にしておく)</p> <p>③交流学习の時間に結果を当てるクイズ大会を行う。答えについては、関連する写真などを見せながら簡単に補足する。</p> <p>* 韓国京畿道にある徳沼高等学校と宮城学院高等学校の間でSkypeを使ってWebカメラを通して行いました。</p>
--	---

●プレゼント交換をする

<p>対面型</p>	<p><u>学校訪問をした際などに、パートナーの生徒とプレゼントを交換し合う</u></p> <p>①相手の学校の生徒にあげたいプレゼントを用意する(キーホルダーや携帯ストラップなど)。</p> <p>②プレゼントを渡すときやもらったときに使える表現を学び、教室内でロールプレイなどをして練習しておく。</p> <p>例)これ、韓国からのお土産です。韓国のりです。どうぞ。(プレゼントを渡すとき)どうもありがとう。おいしそう!(プレゼントをもらったとき)</p> <p>③交流場面で実際にプレゼントを交換する。</p>
<p>非対面型</p>	<p><u>交流の相手校とお菓子などをプレゼントし合う</u></p> <p>①どんなお菓子を送ったら良いかクラス内(グループごと)で話し合う。</p> <p>②送るお菓子を1つ決めたら、それについての紹介文を作成する。</p> <p>③紹介文とお菓子を郵送する。</p> <p>④相手校から届いたお菓子の紹介文を読み、実際に食べてみた感想を送る。</p> <div data-bbox="319 1220 766 1554" data-label="Image"> </div> <p>>>実践例はこちら <u>Ⅲ「2-3 好きなお菓子を紹介しよう」</u></p> <div data-bbox="790 1422 1300 1534" data-label="Caption"> <p>(写真) 日本から届いたお菓子を食べる韓国の生徒たち</p> </div>

おいしい!

《情報交換》

●手紙やカードを送る

非対面型	<p>日本語と韓国語の手紙を送る</p> <p>①手紙を交換するパートナーを決める。 ②習った日本語または韓国語で手紙を書き、さらにまだ外国語で表現しきれない部分については自分の母語を使って書く。わからない部分については教師に助けを借りながら書く。 ③教師が回収して送る。</p>  <p>(写真) 韓国から届いた手紙</p> <p>④相手から届いた手紙を辞書や教師の助けを借りながら読み、クラス内で共有できる内容を報告し合う。</p> <p>グリーティングカードを送る</p> <p>年賀状、暑中見舞い、クリスマスカードなど、季節ごとに送るグリーティングカードを交流相手校に送る。</p> <p>①カードを送るパートナーを決める。 ②習った日本語または韓国語で、グリーティングカードに挨拶表現を書き、自分の母語でのメッセージも添えて送る。 ③もらったグリーティングカードからわかったことや、気がついたことをクラス内で報告し合う。</p>  <p>(写真) 韓国の生徒からのクリスマスカード</p>
------	--

●人や物について紹介する

対面型	<p>Show & Tellをする</p> <p>①テーマに沿って、相手の生徒に紹介したいものや人を選ぶ。(個人またはグループで) ②それについての紹介文を日本語と韓国語で作成する。 ③クラス内で作成した文をチェックし合い、読む練習をする。 ④交流場面で(実際に会って・Webカメラを通じて)、互いに紹介しあう。 ⑤聞いた内容について質問やコメントを交換する。(教師が通訳になっても良い)</p> <p>>>実践例はこちら</p> <p>Ⅲ「2-3 好きなお菓子を紹介しよう」</p>
-----	--

Ⅲ 「5 日本の中の韓国、韓国の中の日本を紹介しよう」

非対面型

画用紙に写真を貼りコメントを付けて紹介する

- ①テーマに沿って、相手の生徒に紹介したいものや人を選ぶ。(個人またはグループで)
- ②紹介するものや人の写真を選び、それに関するコメント文を日本語と韓国語で作成する。
- ③クラス内で作成した文をチェックし合う。
- ④画用紙に紹介するものや人の写真を貼り、コメント文を添えて送る。
- ⑤同様の資料が相手校から届いたら、自分たちの内容と比較し、気付いたことについて報告する。

>>実践例はこちら

Ⅲ 「2-1 一日の食生活を紹介します」

Ⅲ 「2-2 オリジナルのメニューを作ろう」

Ⅲ 「3 かばんの中を紹介します」

Ⅲ 「4 お店を紹介します」

Ⅲ 「6 夏休みの生活を紹介します」

Ⅲ 「8 学校行事を紹介します」

Ⅲ 「10 将来の夢を語ろう」

パワーポイント資料で紹介する

- ①テーマに沿って、相手の生徒に紹介したいものや人を選ぶ。(個人またはグループで)
- ②紹介するものや人の写真を選び、それに関するコメント文を日本語と韓国語で作成する。
- ③パワーポイントに写真とコメント文を挿入する。可能であれば、生徒たちがコメント文を読んだ音声を録画し、音声ファイルも挿入する。
- ④Eメールに添付するかたちで相手の学校に送信する。
- ⑤同様の資料が相手校から届いたら、自分たちの内容と比較し、気付いたことについて報告する。
- ⑥資料の感想・質問を相手の生徒に送る。

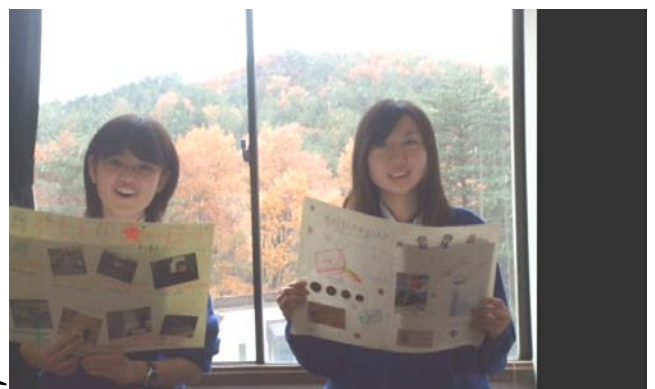
>>実践例はこちら

Ⅲ 「1-2 自己紹介パワーポイントを送ろう」

資料をありがとう



(写真) 韓国の生徒から届いた資料
トピック お店紹介



(写真) もらった資料についてお礼のメッセージを送る日本の生徒たち

●インタビューする

対面型	<p><u>テーマに基づいてインタビューをする</u></p> <ol style="list-style-type: none">①インタビューするテーマを決める。②相手の生徒に聞いてみたいことをクラス内で話し合い、リストアップする。③日本語と韓国語でインタビューにおける質問文を考え、インタビューシートを作成する。④クラス内でインタビュー練習を行い、自分の答えも準備しておく。⑤交流場面(実際に会って・Webカメラを通じて)、インタビューし合い、答えをシートにメモする。⑥インタビューの結果を報告し合い、自分たちと比較して気がついたことなどを話し合う。 <p>>>実践例はこちら</p> <p><u>Ⅲ「9-1 一日の生活を聞いてみよう」</u></p>
-----	--

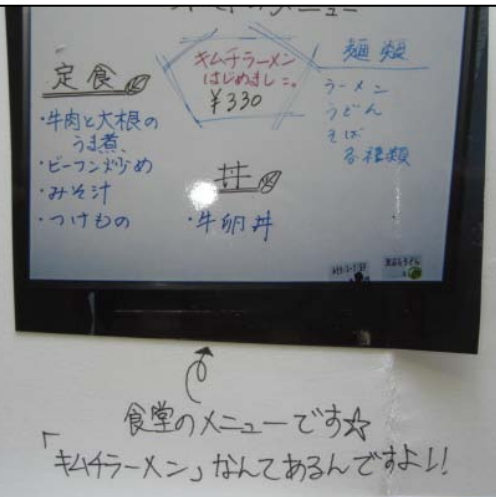
●ガイドする

対面型	<p><u>学校訪問した際に、学校構内を案内する</u></p> <ol style="list-style-type: none">①学校構内で案内したい場所を決める。②教室など学校の場所の名前や、「ここは～です。～があります」など、場所を案内する日本語または韓国語の表現を学び、口頭練習しておく。③交流場面ではパートナーを決めて(個人またはグループで)、学校構内を歩きながら案内する。④生徒同士、自分の学校との違いや同じ点を話し合う。 <div data-bbox="422 1384 1225 1848"></div> <p>(写真) 日本の生徒に学校案内をする韓国の生徒たち</p>
非対面型	<p><u>学校案内資料を作って送る</u></p> <ol style="list-style-type: none">①学校構内で案内したい場所を決める。②教室など学校の場所の名前や、「ここは～です。～があります」など、場所を案内する日本語ま

たは韓国語の表現を学び、話す(書く)練習をする。

- ③資料を動画(動画にリンク)にする場合には、ビデオを持って学校構内を回り、生徒がレポーターとなって、その場所を紹介する。パワーポイントや画用紙を用いて案内資料を作成する場合には、案内したい場所の写真を撮って、日本語と韓国語のコメントを書き添えて相手校に送る。
- ④資料を交換し、自分の学校との違いや同じ点について気がついたことを発表し合う。

(写真) 学校の食堂を紹介した日本の生徒の資料から



>>実践例はこちら

Ⅲ 「7 学校を紹介しよう」

● 言語を教えあう

対面型	<p><u>ペアになって単語や表現を教え合う</u></p> <ol style="list-style-type: none">①パートナーを決める。②様々なことばを表したイラストが複数書いてあるプリント(教師が作成)を生徒に配布する。③制限時間内に、そのイラストが表す日本語と韓国語を互いに教えあってメモする。④さらに自分が知りたいことばをできるだけ多く相手に伝え、相手の言語でどのように言うかを教えてもらい、メモする。⑤制限時間になったらどれだけ多くの言葉を知ることができたかについて発表する。 <p>(ことば当てゲームを行うこともできる)</p>
非対面型	<p><u>自分が書いた文章について単語表を作って送る</u></p> <ol style="list-style-type: none">①テーマに沿った文章を母語で書く。(例:私の夢)②文章に使用した単語や表現を辞書で調べて、単語表を作成する。③文章に単語表を添えて相手の生徒に送る。自分が作成したものはコピーして保管する。④相手からも同様の資料が届いたら、単語表を参照しながら相手を書いた文章の内容を読む。 <p>>>実践例はこちら</p> <h3>Ⅲ 「10 将来の夢を語ろう」</h3>

●ビデオレターを作成する

非対面型	<p>自己紹介ビデオを作成する</p> <ol style="list-style-type: none">①名前・学校名・学年・趣味などについて紹介する文を日本語と韓国語で作る。相手への質問も一つ考えて日本語と韓国語の文を作る。②発音練習をする。③ビデオに撮影し、編集して相手の学校に送る。④同様のビデオレターが届いたら、学習言語で話されている内容を聞きとる練習をする。 <p>>>実践例はこちら</p> <p>Ⅲ「1-3 自己紹介ビデオレターを送ろう」</p> <p>歌とメッセージを伝えるビデオレターを作成する</p> <ol style="list-style-type: none">①最近流行っている歌や、季節に関係する歌を準備する。②その歌に関係する資料(歌詞カード、歌や歌手についての説明、自分との関わりなど)をグループごとに日本語と韓国語で作成する。作成した資料はクラス内でチェックする。③クラスで歌を歌い、その様子をビデオ撮影する。作成した資料も添えて送る。④同様の資料が届いたら、紹介された歌を自分たちも歌ってみる。
------	--

●アンケートをとる

非対面型	<p>自分でテーマを設定してアンケートを作り調査をする</p> <ol style="list-style-type: none">①相手の生徒たちに聞いてみたいテーマを設定する。(個人またはグループで)②テーマに基づいて調査計画書を母語で作成する。③計画書に基づいて、質問項目をリストアップする。④質問文を習っている日本語または韓国語で作成する。答えを集計しやすいように、なるべく自由回答欄を少なくし、選択肢を多くする。⑤アンケート用紙が完成したらチェックを受け、相手の学校に送る。⑥同じアンケート(母語版)を自分のクラスでも実施し、集計する。⑦相手の学校の生徒から回答が届いたら、その結果を集計し、母語で調査報告会を行う。 <p>>>実践例はこちら</p> <p>Ⅲ「11 アンケート調査をしてレポートにまとめよう」</p>
------	--

《協同作業》

●一緒にブログを作る

非対面型	<p>共同のWebページを作成し、教室活動の成果などを共有する</p> <p>①交流校と共同のWebページを教師が準備する。</p> <p>②授業で行った教室活動の成果物をアップする。(例:食文化紹介などを行ったら、その写真や紹介文を生徒がアップする)</p> <p>③交流校の相手はその内容を見て、コメントを書き入れる。</p> <p>(韓国の生徒のほうが人数やクラスが多い場合、月ごとにアップするクラスを決めて、必ず一回は成果物をアップできるようにする。コメントは全ての生徒が書き入れられるようにする)</p>
------	---

●一緒にイベント(プロジェクト)の準備をする

対面型	<p>イベントに必要なことを話し合う</p> <p>①共同で行うことができるイベントやプロジェクト(例 合同キャンプ)について、どのようなものを準備したらよいか、互いに持ち寄ったほうがよいものは何か、聞いておきたいことなどについてクラス内で話し合う。</p> <p>②交流場面で(実際に会って・Webカメラを通じて)それぞれが考えたことを日本語または韓国語で伝え、質問をしあう。(必要に応じて教師が通訳する)</p> <p>③話し合った内容をメモし、準備作業に入る。</p>
非対面型	<p>イベントの準備に必要なことや質問を書いて送る</p> <p>①共同で行うことができるイベントやプロジェクトについて、どのようなものを準備したらよいか、互いに持ち寄ったほうがよいものは何か、聞いておきたいことなどについてクラス内で話し合う。</p> <p>②相手に伝えたい内容がまとまったら、日本語または韓国語で書いてFAXなどを通じて送る。(学習段階に応じて学習言語でやるか、母語でやるか決める)</p> <p>③相手校からの回答を読み、準備作業に入る。</p>

4. 運営上のポイント

★教師同士の連携がポイント！

事前の打ち合わせ(クラスサイズ、学習段階、パートナーのマッチング、テーマ設定、交流学习の日時など)をきちんと行うことが大前提です。教師同士の交流ができていれば、生徒同士の交流はよりスムーズになります。

★学校の年間スケジュールを互いに把握した上で、無理のない交流学习プランを！

韓国は3月から、日本は4月から学期がスタートする関係で、試験の時期や長期休暇の時期がずれるため、どの時期に何を行うかを学期の初めに打ち合わせをしておくことが大切です。交流活動ができない時期にそのために必要な語彙や文法の学習を集中して行うなど、計画性を持って行うのがポイント。

★対面型、非対面型の交流学习を効果的に組み合わせモチベーションを上げる！

非対面型の交流学习(手紙交換など)と対面型の交流学习(実際に会う・Webカメラを通じて話す)を組み合わせると、生徒のモチベーションがかなり向上するようです。顔が見える交流を是非1度は体験させたいものです。

前田(2002)は、交流継続のポイントとして、「(1)交流プランを立てる」「(2)楽になるシステムを考える」「(3)教科の学習を交流に活かす」「(4)物を送り、迅速に反応する」の4点を挙げています。ここで注目に値するのは「(2)楽になるシステムを考える」ではないでしょうか。前田(2002)は英語圏の生徒たちとの交流学习を例に取り上げていましたが、生徒たちが書いた英語の文章を全て担当の教師が訳すのは大きな負担なので、英語のできる保護者に和訳のボランティアを依頼した、つまり、子どもたちの保護者という人的リソースを有効に活用し、教師の負担を軽減したということでした。私も大学の韓国人留学生にアシスタントで来てもらい、生徒たちの交流学习のサポートをしてもらっています。留学生も高校生との交流を楽しんでいるようで、互いに勉強になるというのがメリットだと思います。こうした人的リソースの活用は、交流学习を継続させるポイントと言えそうです。



参考文献

前田康裕(2002)「子どもをネットワークカーにする総合的な学習」『共同交流型カリキュラムを創る』明治図書

質問コーナー

Q. このWebページでは日本語と韓国語の授業の中で行う交流学习が取り上げられていますが、正規の授業内で行うのはいろいろな制約があって難しいのでは？

A. それぞれのカリキュラムの中で交流学习をどのように位置づけるかによります。年間を通し、交流活動を柱としたカリキュラムの授業を行うことは運営上難しいかもしれませんが、一年に一回、半年に一回でも、互いの学習成果を発表し合うような交流学习は実現可能ではないかと思います。まずは、互いの学校で可能な方法と内容で実践してみて、より良い形を模索していけるとよいと思います。学校によって、さまざまな形が有りうると思います。

Q. 文法や語彙の学習の仕方は？

A. 本Webページの事例集で紹介した内容は、トピックに基づいた資料の交換という交流活動の中で、必要な語彙や表現を学んでいくというものでした。毎回のトピックに関連して「これだけは」学んでほしいという言語表現を設け、最低限その文を作るための文法や単語を学びました。生徒一人一人伝えたい内容は異なるため、辞書を引いて必要なことばを探すことも毎回の授業で大切な作業でした。トピックが変わっても同じ表現を繰り返し使うことが多々あり、この繰り返しの中で定着が促されていったように思います。文法、語彙の学習は外国語学習の骨と血の部分ですので、基礎力を付けるために不可欠です。交流学习活動と上手くリンクさせながらモチベーションを高め、授業外での自律的な学習も促せるようにしたいと考えています。

Q. 交流活動の頻度はどれくらいが適切？

A. 学校それぞれのスケジュールの中で可能な頻度を見出していく必要がありますが、何かを受け取ったら、なるべく早くそれに対して反応するのが原則です。2週間以内が良いでしょう。ファックスやメールを使って感想を送るのがベスト。大きな休みや試験の期間を互いに把握し、反応がすばやく示せる間隔で交流活動を行いたいですね。学校の年間スケジュールを交換しておくことが大切だと思いました。

Q. 教師間の打ち合わせはどのように行う？

A. メールが便利ですが、最近はSkypeなど無料の通信ソフトを使って電話で打ち合わせすることも簡単になりました。ビデオ通話なども可能ですね。生徒同士がつながるためにはまず教師同士がつながることが大切だと思います。コミュニケーションの機会をなるべく多くすることが交流学习を成功させるポイントだと思います。互いのカリキュラムの確認、クラスの雰囲気、生徒の学習状況、交流活動の具体的な段取り、生徒の反応と振り返り、評価など話し合うべき点はたくさんあります。年度の初め、交流学习の前後、学期の終わりには必ず情報交換をし、さらに良い交流学习の在り方を話し合います。